

(仮訳)

¹G7 フランス議長国

議長国によるプレスリリース

G7 農業大臣会合（2026 年 10 月 19 日、パリ）

フランス G7 議長国の下、我々 G7 農業大臣及び農業・食料担当欧州委員は、国際食品見本市（SIAL）の開催に合わせ、2026 年 10 月 19 日にパリで会合した。本会合では、農業・食料システムの持続可能性及び強じん性強化に向けた議論を深めるとともに、特に農業における養分管理及び土壌の健全性に焦点を当てて意見交換を行った。

6 月 8 日に開催された農業大臣会合では、肥料価格高騰及びサプライチェーンの混乱への対応として農業者に短期的支援を提供する方策について議論が行われるとともに、肥料の戦略的重要性が認識された。農業・食料システムに対する地政学的緊張の高まりに加え、気候変動リスクが増大する中、閣僚らは議論の範囲を広げ、農業者が危機に対処するための中長期的な解決策について議論した。特に、効果的な肥料の利用、養分管理及び土壌の健全性の向上を促進する農業慣行について議論を行った。

また、国際食品見本市の会場において、G7 各国の企業と革新的な食品について意見交換を行うとともに、フランス及び各国の食品分野を代表する主要な関係者との対話を実施した。

大臣は、12 月 3 日及び 4 日に、INRAE（フランス国立農業・食料・環境研究所）が G7 各国の主席農業研究者を集めた対話の場を開催することを発表した。この会合は、土壌の健全性及び養分管理における共通の優先課題、研究ニーズ及び協力の方向性を特定する機会となる。これらは、生産性が高く、持続可能で強じんな農業を長期的に構築していく上で重要な課題である。このハイレベル科学対話の成果を踏まえ、将来の G7 議長国のイニシアティブの下で、本対話を継続することが検討される。

これと並行して、G7 各国の首席獣医官は、11 月 19 日及び 20 日にパリで会合を開催し、生物学的脅威と偽情報等への対応について議論を行う予定である。これらの議論は、動物衛

1. 本プレスリリースは、2026 年の G7 議長国であるフランスが作成し、各国に回覧しているものです。

生の観点から、農業・食料システムの強じん性強化に向けた共同の取組に貢献するとともに、世界の食料安全保障の推進が期待される。

「我が国の農業者が相次ぐ危機に直面する中、私たちは長期的な視点に立って行動しなければなりません。より良い養分管理、土壌健全性の維持、そして、脆弱性の低減は、私たちの重要な優先課題の一つです。研究及び科学的知見は、政策立案に必要な根拠を提供するとともに、各国の農業システムに適した解決策を見いだす上で不可欠です。私たちは、他の G7 メンバーとともに、これらの危機を乗り越えられるよう、短期的にも中期的にも農業者を支援することに強い決意を有しています。」と、アニー・ジュヌヴァール農業・食品産業・食料主権大臣は述べた。